



安城市議会議員 石川つばさ通信 号外

市政レポート

まちづくり特別委員会で 「新安城まちづくり協議会」視察

1月23日、まちづくり特別委員会（委員会）で新安城駅周辺のまちづくりについて協議する「新安城まちづくり協議会」（協議会）を視察しました。協議会はこれまでも会議を重ね、今回が19回目とのことでした。

新安城駅の橋上化は30億円余を投じ、負担割合も安城市が大半を負担する内容となっています。巨額の費用に加え詳細な情報が出てこない事からも、同事業については疑問の声も少なくありません。こうした問題を考えれば、事業に反対する理由は十分です。

それでも私自身は、駅の改修で終わりにせず開かずの踏切など駅周辺の諸問題にも引き続き取り組んでいくとの確約を得てきたこと（2015年11月全員協議会）や、関係町内会の方々の大変なご苦労の下で協議が進められている事を勘案し、あまりブレーキをかける発言はしないようにしてきました。

今回、協議会の審議の様子を視察できることになり、関心を持ってお邪魔しました。特別委員会の委員として、つまり仕事として参加した以上、あまり感情的なことを記したくはありませんが、率直な感想として頭に血が上る思いでした。

過去18回の会議で核心部分は既に審議が済んでいるようで、この日は殆ど実務的な話に終始しました。もう数回前の会議であれば実のある話が聞けたのではないかとも思いますが、残念ながら委員会のテーマとも乖離しているように感じました。

ファシリテーターは地域の方でなく、業者らしき方が務めました
が、どういう立場で参加されているかも把握できないまま時間だけ
が過ぎていきました。

これまで排除されてきた立場としては、心情的なしこりはありつ
つも、表面に記した様に駅周辺の実利を考えてきたつもりです。開
かずの踏切や手狭なロータリーなど、駅周辺の環境が改善されるま
でその姿勢を変えないつもりでいました。

ところが、今回の視察は結果的に火に油を注ぐことになりました。
露骨に核心部分を覆い、エンドロールのみを見せられたわけです。
このことをもって「情報公開した」と言うのであれば、今回の視察
がセットされた目的は「見せた」というアリバイ作りでしかありま
せん。

3月議会代表質問や予算審議で新安城駅に関する質問に「1/23には
特別委員会の皆様にも協議会をご覧いただいたところであります。」
等という答弁がなされないことを願うばかりです。

辛辣な書きぶりになりましたが、批判の矛先は一つです。協議会
に参加される地域の方々がこの様な情報統制を敷く理由はありませんし、
市役所の担当部署においても議員や町内会を選別・排除する
ことはしないでしょう。もっと、強い力が働いているはずです。

最後に、ここまで記してきたことの中には事実とのズレや認識違
いがあるかもしれません。それでも、あえてそれを承知で書きまし
た。それは、与えられたわずかな情報から判断すればこうした判断
にならざるを得ないからです。

襟を正すべきは、情報不足から疑念を抱く側ではありません。鉄
のカーテンを引き、徹底した情報統制を行う側です。